

---

---

## 来賓挨拶

ファイザー株式会社 代表取締役社長  
梅田 一郎

---

---

出捐企業であるファイザー株式会社を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、本日の第21回ヘルスリサーチフォーラムおよび平成26年度研究助成金贈呈式開催に当たりまして、研究成果発表者の方々、各セッションの座長の労をお取りいただいた選考委員の先生方、選考委員長の永井良三先生、そしてご参加いただいた皆さまに心より感謝の意を表します。また、今回も厚生労働省のご後援、更に、医療経済研究機構のご協賛をいただいたことにつきましては、出捐企業として大変感謝しております。そして、本年度の研究助成を受賞される皆さまには心よりお祝いを申し上げますとともに、2年後のフォーラムで研究成果のご発表を聞けることを大変楽しみにしております。

先ほど島谷理事長のご挨拶の中に、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のこれまでの助成件数、また今年度の応募件数等のお話でしたが、社会においてヘルスリサーチの概念が定着し、また携わる方が多くなってきていることをあらためて実感し、財団の事業活動も、微力ではありますが多少なりとも貢献できているのではないかと考え、大変嬉しく思っております。これもひとえに役員、選考委員の先生方、また、さまざまな分野でヘルスリサーチに取り組んでおられる研究者の皆さまのご尽力のおかげと、大変感謝しております。

財団設立以来、財団事業に大変ご尽力いただきました故開原成允先生が、「今後ますます複雑化する世の中においては、ヘルスリサーチの重要性が高まってくるからこそ、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の、文字通り、ヘルスリサーチの振興事業は先駆的な役割を果たすであろう」と仰っておられました。また、選考委員長の永井先生も昨年の記念講演で「日本の医療制度の特徴をよく理解した上で、他の学術分野に影響を及ぼすことのできる情報を発信することが、ヘルスリサーチに期待されている」と述べられましたが、今回のテーマ『少子・長寿・多死-変容する社会に応えるヘルスリサーチ』にもありますように、まさに変容する社会の中でヘルスリサーチの重要性がますます高まってきていることに応えるべく、財団として今後も事業活動を進めていきたいと願っております。

次に私から、ファイザーの近況や会社を取り巻く環境について、少しご報告させていただきます。

ファイザーは最近数年、主要な製品の特許切れということがあって売上を若干落とし、大変厳しい状況にあります。そうした中、経費削減の努力、あるいは自社株買い等で株

主の一株当たり利益を確保する等、非常に厳しい経営をしているところです。ただこれは、決してファイザー一社ではなく、マルチナショナルな製薬企業のいずれもが主要製品の特許切れを迎えて、今、非常に厳しい状況にあるということです。特に、数年前からのヨーロッパでのギリシャ危機以降の経済危機の中で、医療費の削減、医薬品の薬価の大きな切り下げといったことが、先進国市場に非常に大きな影響を及ぼしました。この間、製薬産業は中国やアジアに代表されるようなエマージングな市場で成長していくことで全体をなんとか支えてきた状況にあります。

ところが、ほんの1、2週間前、今年の上半期の世界の医薬品市場の統計データが発表されました。これを見ますと、今年の世界の医薬品市場は7%程度成長すると書かれています。その理由は、経済が上向いてきていること。これが一番大きく、そして、当然ながら高齢化というのは日本だけの問題ではありません。また、新しい医薬品が出てきているということ。さらには、経済の上向きに呼応して、薬価そのものの上昇というようなこと。これらのことが相俟って医薬品市場は成長していると書かれていました。

しかし、日本の市場を見てみますと、世界とは違い、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、2年に1回の薬価の切り下げがあり、さらに最近ではジェネリックへの急速な転換ということもあって、医薬品市場は非常に厳しい状況にあります。ファイザーも同様であります。

先週ファイザーのイアン・リードCEO…今アメリカの製薬工業団体の会長もしております…が日本に参りまして、大臣、政治家、あるいは行政、メディアの皆さま方にお会いし、日本における医薬品の開発がさらに進み、市場としても期待できるものになるように、いろいろとお願いをさせていただきました。世界の状況と若干違っている日本の状況を考えますと、この領域においても、改めてまたジャパンパッシングが起こらないようにと願っております。

一転、明るい話題提供ですが、ファイザー…これはグローバル・ファイザーですけれども、1月ほど前に東京大学と医薬品の開発をテーマに、包括的なパートナーシップ契約を締結させていただきました。日本ではバイオベンチャーが育っていない、あるいはベンチャーキャピタルが小さいということがよく言われます。決して、私共の狙いは、大きな製薬企業が開発品の種にお金をつけていきたいと思いますという単純なことではなく、研究者の先生方とわれわれの医薬品研究のプロとが一緒になって話し合いをしていく中で、その先生方の研究がさらに進むようにコンサルテーションし、あるいは、必要なデータがファイザーにあれば提供し、というようなことで後押しをしていこうという試みです。東京大学にとっても初めてのことでありとお聞きしています。こうしたことの中から、日本において新たな医薬品の種が出てくることを大いに期待しております。

大変厳しい環境の中ですけれども、さまざまな努力をしながら、ファイザーもなんとか頑張っているということです。

さて、ファイザー株式会社のビジョンは、日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になるということです。このビジョン達成のためには、今申し上げたビジネス上での努力と同様に、社会貢献事業も非常に重要です。ファイザーでは、患者会などヘルスケア関連団体へのサポート、あるいはNGOなど市民活動団体への助成プログラム、

---

また、社員によるボランティア活動の助成等、さまざまな活動を実施しております。その中で、研究助成を始めとする当振興財団の事業活動に対する出捐は、弊社の社会貢献活動において非常に重要な活動と位置づけております。今後とも財団の活動の支援を始め、さまざまなプログラムを通じて継続的な社会貢献を実施していきたいと考えております。

最後に、本日参加された全ての皆さまのますますのご健勝と、ご研究のさらなるご発展を心より祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。